

## 喫煙文化研究会声明　ほんとうにタバコは悪ですか

“禁煙ヒステリー”ともいうべき空気が、いま、日本社会を席卷しつつあります。喫煙イコール「絶対的な悪」という決め付けで、すべての喫煙を排除すべくヒステリックな嫌煙・禁煙活動が全国で展開されています。喫煙文化研究会では、こうした風潮に対して、「これが常識ある社会の姿なのだろうか」という問題意識のもと、識者の方々にもご参加いただき、人と喫煙の関係を、文化・社会・伝統・環境・健康など様々な角度から幅広く考えていきたいと思っております。

### 肺ガンの有力な容疑者はほんとうにたばこか

ところで成人男子の喫煙率はこのおよそ50年で85%から39%に半減しています。一方、肺ガンは60倍（いずれも1959年から2007年の統計）に増えているのです。これでどうしてタバコが肺がんの有力容疑者なのでしょう。NK細胞を発見した免疫学の世界的権威の奥村 康順天堂大学医学部教授は雑誌の対談でこう仰っておられます。

「(タバコは) 肺がんになんか関係ないですよ。肺がんタバコとの関係が証明されたらノーベル賞ものとまで言われているのですから。排ガスの方がずっと危ないです。(車と肺ガンの伸び率はリンクしている) 排ガスを吸って肺がんが起る確率を10とすると、タバコなんか0.000・・・いくつですから。タバコに罪を押しつけているだけですよ。」(『歴史通』7月号)

実際、過去半世紀を振り返るとの自動車の増加と肺がんの増加はリンクしているのです。

### 受動喫煙より野菜不足の方が危険

さて、真偽が確定しにくい宿命をもっている疫学調査ではありますが、国立がんセンターでは「疫学研究で喫煙と発がんとの関係が明らかになった」と発表しています。それによる喫煙者は非喫煙者に比べて「がんになるリスクが1.6倍」だといいます。ちなみに日本酒を一週間に二升飲んだリスクもまったく同じ1.6倍です。

いま禁煙・嫌煙運動の方々が問題にしているのは、タバコをすう本人はいいが、その傍で煙を受ける人が被害者なのだから社会的犯罪である、というものです。「副流煙」「受動喫煙」が最大の問題であると。タバコを吸わない非喫煙妻たちが喫煙する夫からの受動喫煙によって肺がん死する、というのです。

では、この受動喫煙によるがんリスク（女性）はどの程度の値かといえば1.02から1.03です。ちなみに、野菜不足によるがんリスクは1.06で、じつに受動喫煙によるがんリスクより高い値を示しているのがわかります。

その他の「がんリスク」を見ていくと、肥満が1.22、やせ過ぎが1.29、運動不足にもリスクがあって1.15から1.19。高塩分の食品にもがんリスクがあり、1.11から1.15という数字が並んでいます。

また肺がんに限って見ると、非喫煙女性が受動喫煙によって発がんするリスクは1.3と若干高まる。それにしても運動不足で結腸がんになるリスクが1.7や肥満で大腸がんになるリスク1.5に比べて低くなっています。高塩分食品の毎日摂取によるリスクは2.5から3.5になるそうです

平山論文は初めに「肺ガンは副流煙だ」と結論ありきで決めてかかり、それに合わせて調査し数値を合わせるやり方で、本来なら「有意差」がないものをデータ処理の技術によって「明らかな差」としている部分があります。

“受動喫煙”という被害者視点からの発がんリスクの発想でいえば、たとえば、酒酔い運転・飲酒運転による事故被害や、飲酒を原因とする暴力犯罪の被害者は、いってみれば“受動飲酒”の社会的被害者といつてよいでしょう。

警視庁の調べによると、飲酒運転による交通事故は年間5000件を超え、死亡者数も300件前後を数えています。また重大事犯と飲酒との関係でも、飲酒率が殺人で約25%、傷害致死では38%超（それぞれ2010年）を記録しています。

こうしたことからアルコール摂取に関しては時と場合を勘案しながら飲むことを、ある時は法律・条例で、ある時はマナーとして求められています。言ってみれば、時と場合を基準にした“分酒”で成り立っているというわけです。

一方、タバコの“受動喫煙”に関してはどうか。自動車運転にしても犯罪行為にしても、喫煙そのものが原因で起きるとは、寡聞にして聞いたことがありません。にもかかわらず、受動喫煙を防ぐとの理由から喫煙そのものが締め出されようとしています。

タバコをやめるストレスで病気になる確率は、がんになる確率よりはるかに高いのをご存知でしょうか？

私どもは、喫煙ルールを守り、愛煙家とそうでない方々がともに気持ちよく生活していただける美しい分煙社会を築き上げるのが理想です。